

Ⅲ. 神々の神話

A 神々の名譽と領分 …が問題となる神話

1. タンタロス (Ap. p. 178. 4 - 8) ——神々の特権の侵害

‘tantalizing’ な罰を受けている理由＝人間ながらゼウスの息子として神々の食卓につくことを許されていたが、その特権を利用した。

(1) 神々の食物を人間たちに渡した／神々の秘密を人間に漏らした …神々の領域・特権を侵す

(2) 息子ペロプスの肉を神々に食べさせた(ピンダロス Pyth 1, cf. Apollod. 178. 11-12)

…神への侮辱

Cf. プロメテウス：神々の所から火を盗み出し、人間に与え、罰を受けている。

2. イクシオン (Ap. p. 176 末 4 - 177. 1) ——神への侮辱、神の前での驕り

ゼウスの妃を犯そうとしてので、車輪の罰を受けている。

Cf. マルシュアス (Ap. p. 35)：アポロンを挑発して負け、皮を剥かれる。

タミュリス (Ap. p. 33)：ムーサ女神らに歌比べを挑み、負けて歌の技を奪われ盲目にされる。

アガメムノン (Ap. p. 186)：アルテミスに対して驕り／犠牲を怠り、娘の生贄を要求される。

3. ヒッポリュトス (Ap. p. 176. 7-14 ;エウリピデス『ヒッポリュトス』) ——神への不敬／神の領分の相互不可侵

もっぱらアルテミスに奉仕し、アフロディテをないがしろにしていることから、破滅に導かれる。

アルテミスはヒッポリュトスを、アフロディテの策略から救い出すことができない。

アルテミスは、アドニス殺すことでアフロディテに復讐する (Ap. p. 162)。

4. アスクレピオス (Ap. p. 146 末 3 - 147) ——人間に課された限界 (寿命)

アスクレピオスは、死者を蘇らせて生死の垣を破ろうとし、ゼウスに雷で撃たれる。

Cf. シシュポス：狡賢く、甘言を弄してペルセポネ (冥界の女王) を騙して、冥界から地上へ戻っ

て来た (テオグニス 722ff.)。タナトス(死)を縛ったために死者がいなくなっ

てしまった／自分が死んでも何も持たせると妻に言いつけていたので、供え物を

とりに冥界から地上に戻されたのを幸いに、もう一度生きた (パレキニデス)

→石を転がし上げる罰 (Ap. p. 50 末 5, Bulf. 247)

5. ダイダロスとイカロス (Ap. p. 175. 2-7, Bulf. 211-12) ——人間に課された限界 (行動範囲)

この親子は、人間には危険すぎる技にも手を出した。

膠でとめあわせた翼で太陽に近づき、壊れて墜落する。

Cf. パエトン：ヘリオス (太陽神) の息子パエトンが、父から太陽の馬車を貸してもらうが、進路

を外れたためにゼウスに雷で撃たれる (エウリピデス『パエトン』断片, Bulf. 64-74)

6. テイレシアス (Ap. p. 135. 6 - 136. 5) ——人間に課された限界 (知識の制限、知識と視力の帳尻)
盲目となった理由 (1) 神々の秘密を人間に明かした罰 (←超人的な知が前提)

(2) アテナの水浴を見て盲目化された; ただし、母カリクロのとりなしで
鳥の声を聞き分ける能力が与えられた

(3) 男女両性を体験し、ゼウスとヘラの快樂論争に答えたら、ヘラに罰せられて
盲目となるが、ゼウスにより予言術を授けられた (女の秘密を明かした罰?)

Cf. オイディプス (Ap. p. 130. 5 - 132. 2) : 隠されていた真実を知った時、目あきではいたたまれず
に自ら盲目化する。

ホメロス、デモドコス : とともに盲目であったとされる伝説的詩人。

● 神の領分が人間の領分を規定していたり、
神の特権が人間の限界を規定していたりすることが多い。

● 神と人間の領分の間には境界線があり、
それを侵害した人間は苛酷に制裁される。

次回 神と人間の中の恋		
女神と男	Apollod.	Bulf.
アドニス	162. 1 - 末 6	96 - 98
エンデュミオン	43. 7 - 9	267
男神と女		
ダナエ	79. 末 4 - 80. 7	
レダ	148. 末 4 - 149. 5	